

ロームシアター京都



自主事業ラインアップ — 2019.10 — 2020.3

# ROHM Theatre Kyoto

ロームシアター京都  
ROHM Theatre Kyoto

# ロームシアター京都

## 2019年度 自主事業ラインナップ

京都に「劇場文化をつくる」ことを目指し、自ら企画に取り組んだ多彩な事業を引き続きお届けします。洋の東西を問わず、世界水準の優れた作品をお届けすることはもちろん、劇場の財産となる作品のプロデュースや、次代を担う芸術家の育成にも一層力を入れて取り組みます。また京都のさまざまな施設や団体と連携し、世代やバックグラウンドの違いを越えた人々が参加できる多彩なプログラムを通じて、劇場をハブに多様な出会いを生み出します。

ロームシアター京都の自主事業には、「創造」「育成」「交流」「生活」という4つの構成要素がありますが、これらは各事業を分類するためのタグではありません。一つの事業の中に複数の要素を盛り込むことによって、異なる事業間に有機的つながりを持たせるためのものです。たとえば、「レポーターの創造」という事業は、その名の通り「創造」が主な目的ですが、「リサーチプログラム」という若手研究者を「育成」する事業の研究対象にもなりますし、アーティストの滞在制作期間中には、京都のアーティストとの「交流」も図られるはずです。

また2019年度は、奇しくもあるキーワードによっていくつかの公演事業をつなぐことができます。それは“人形”というものです。「レポーターの創造」で制作するジゼル・ヴィエンヌの作品は、生身のダンサーとそれと見紛う精巧な人形が舞台上に登場し、「舞台芸術としての伝統芸能」シリーズ第3回目では、日本が世界に誇る芸能・人形浄瑠璃文楽に取り組みます。AI（人工知能）がニュースを賑わす現在において、古来より人間の祭礼・芸術などの文化的営為で重要な位置を占めてきた人形を取って今キーワードに据えることで、現代社会を俯瞰して見る視点を得られるかもしれません。もう一つの特徴は、「総合」に分類される事業が増えたことです。ロームシアター京都がご紹介したい作品・プロジェクトは、その質はもちろんのこと、チャレンジ精神も重要な要素です。従来の「演劇」「音楽」「舞踊」などのジャンルでは分類しきれない新しい取り組みは、未分化であったり、複合的であったりするのは自然の成り行きです。未だ見ぬものに分け入る冒険のような鑑賞体験へと、皆さんを誘うことになるでしょう。

あくまでこれらは一例ですが、ロームシアター京都の自主事業は、事業の趣旨やテーマを通じて様々なつながりを持つように構成されています。それはこの劇場が施設としてだけでなく、内容としても開かれた場でありたいと考えるからです。内容として開かれているというのは、様々な興味・関心からアクセス可能だということです。そうすることで、皆さんにとって、そして我々劇場のスタッフにとっても思わぬ出会いのきっかけを用意することができるのです。そんな新たな出会いが、新たな対話を生み出していく…。ロームシアター京都で生まれる営みが蓄積となり、さらに人々が引き寄せられ、日常のかつ継続的にロームシアター京都に足を運び、関心を寄せてもらえるようなサイクルが生み出されることを願っています。

ロームシアター京都

月	日	会場	事業名	ジャンル	
10	5 <sup>[土]</sup> -27 <sup>[日]</sup>	ローム・スクエア	OKAZAKI PARK STAGE	総合	
	5 <sup>[土]</sup> -27 <sup>[日]</sup>	ロームシアター 京都ほか	KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2019	総合	
	27 <sup>[日]</sup>	ローム・スクエア	ホリデー・パフォーマンス Vol.3 中川裕貴 × 渡邊尚	総合	
	28 <sup>[月]</sup> 、30 <sup>[水]</sup>	メインホール	新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2019 『蝶々夫人』	音楽	
11	4 <sup>[月・休]</sup>	メインホール	全京都洋舞協議会60周年記念公演 Beyond the Generation ～世代を超えて～	舞踊	
	26 <sup>[火]</sup>	サウスホール	第348回 市民寄席	演劇	
12	2 <sup>[月]</sup>	ノースホール	Marihiko Hara 《FOR A SILENT SPACE》	音楽	
	11 <sup>[水]</sup> -13 <sup>[金]</sup>	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” <sup>①</sup> ハ、ロ、ー、しんじょう お寿司 ボロレスコ『葎葎心中』	総合	
	12 <sup>[木]</sup>	サウスホール	ジョン・ジョナス京都賞受賞記念 パフォーマンス『Reanimation』	総合	
	18 <sup>[水]</sup> 、19 <sup>[木]</sup>	ノースホール	村田沙耶香 × 松井周 <sup>か、わ、り、み</sup> inseparable『麦半身』	演劇	
	22 <sup>[日]</sup>	メインホール	東京バレエ団 × 京都市交響楽団クリスマス・スペシャル バレエ『くるみ割り人形』〈全幕〉	音楽	
	未定	3階共通ロビー	いまを考えるトークシリーズ Vol.9	学び／参加	
2020	1	18 <sup>[土]</sup>	サウスホール	室内オペラ 『サイレンス』	音楽
	26 <sup>[日]</sup>	サウスホール	第349回 市民寄席	演劇	
	未定	3階共通ロビー	いまを考えるトークシリーズ Vol.10	学び／参加	
	2	8 <sup>[土]</sup> 、9 <sup>[日]</sup>	サウスホール	レポーターの創造 ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ 『ショールームダミーズ #4』	舞踊
	8 <sup>[土]</sup> -11 <sup>[火・祝]</sup>	ノースホール	U35 創造支援プログラム“KIPPU” <sup>②</sup> オル太	総合	
	21 <sup>[金]</sup> -23 <sup>[日・祝]</sup>	ノースホール	康本雅子 新作ダンス公演	舞踊	
	24 <sup>[月・休]</sup>	3階共通ロビー	ホリデー・パフォーマンス Vol.4 いまいけぶろじえくと	総合	
	28 <sup>[金]</sup> 、29 <sup>[土]</sup>	ノースホール	ANTIBO 東野祥子 × SFFW コラボレーション企画 『CORPO SURREAL』	舞踊	
	29 <sup>[土]</sup>	サウスホール	シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.3 人形浄瑠璃文楽	演劇	
3	20 <sup>[金・祝]</sup> -22 <sup>[日]</sup>	メインホール	小澤征爾音楽塾 オペラ・プロジェクト XVIII J.シュトラウス II 世   喜歌劇「こうもり」	音楽	
	27 <sup>[金]</sup> -29 <sup>[日]</sup> (予定)	サウスホール	KYOTO STEAM—世界文化交流祭—2020 ダムタイプ 新作パフォーマンス	総合	

主催

シリーズ舞台芸術としての  
伝統芸能 vol.3

## 人形浄瑠璃文楽



桐竹勤十郎

伝統芸能の継承と創造を目指す  
シリーズ第三弾は、文楽!

2017年度から始まった伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」。3年目となる2019年度は“文楽”をテーマに、木ノ下歌舞伎主宰・木ノ下裕一をスーパーバイザーに招き、文楽の魅力を詰め込んだ1日限りのスペシャルな上演。上演後には、芸芸員と専門家によるディスカッションも実施します。

出演 | 〈太夫〉竹本津駒太夫、竹本碩太夫 ほか  
〈三味線〉鶴澤清介、鶴澤藤蔵 ほか  
〈人形遣い〉桐竹勤十郎、吉田玉男、吉田勘弥 ほか

スーパーバイザー | 木ノ下裕一

演目 | 端模様夢路門松 木下蔭狭間合戦「竹中砦の段」

桐竹勤十郎 / Kanjuro Kiritake

1953年大阪生まれ。父は人間国宝の人形遣い、二世桐竹勤十郎、姉は俳優、三林京子。1967年文楽協会人形部研究生となる。人間国宝の三世吉田簀助に師事。父から学んだ立ち役、名女方の師匠から学んだ女方、男女の人形を遣いこなす。2003年、三世桐竹勤十郎を襲名。2008年芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章、平成21年度(第66回)日本芸術院賞、平成30年第38回伝統文化ポラ賞優秀賞など受賞多数。



木ノ下 裕一 (木ノ下歌舞伎主宰) / Yuichi Kinoshita

1985年和歌山市生まれ。2006年に古典演目上演の演出や補綴・監修を自らが行う木ノ下歌舞伎を旗揚げ。平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞。平成29年度京都市芸術文化特別奨励制度奨励者。公益財団法人セゾン文化財団ジュニア・フェロー。渋谷・コクーン歌舞伎『切られの与三』(2018)の補綴を務めるなど、外部での執筆、講座など多岐にわたって活動中。



**全席指定** 一般(1階席) 6,000円 / ユース(25歳以下) 4,000円  
一般(2階席) 4,000円 / ユース(25歳以下) 2,000円 [10月16日一般発売開始]

主催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 企画製作 | ロームシアター京都制作協力 | 木ノ下歌舞伎 / 一般社団法人樹来舎 特別協賛 | 公益財団法人稲盛財団 助成 | 2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

## 演劇 / THEATER

主催



「第339回市民寄席～三番改七代目笑福亭松喬襲名披露公演～」撮影 | 佐々木卓男

1957年にスタートし、京都では恒例の落語会として長く親しまれてきた「市民寄席」。幅広い世代に笑を届ける上方落語の生の迫力と寄席の雰囲気をご体験ください。

第348回 日時: 11月26日[火] 19:00開演  
番組 | 「真田小僧」桂弥っこ、「新党結成」桂三金、  
「怪気の独楽」林家うさぎ、「試し酒」笑福亭鶴光

第349回 日時: 2020年1月26日[日] 13:30開演

**全席指定** 第348回 | 前売1,800円 / 当日2,000円 / ユース(25歳以下) 1,500円  
第349回 | 前売2,300円 / 当日2,500円 / ユース(25歳以下) 1,500円  
[第348回: 発売中 / 第349回: 11月26日(火)一般発売開始]

会場  
サウスホール

主催 | 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)  
助成 | 2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

主催

村田沙耶香 × 松井周  
inseparable 『まわり身』

## 芥川賞作家の村田沙耶香と岸田戯曲賞作家の松井周が運命の共作

マイノリティーの居心地の悪さと、まもなく訪れそうな未来をユーモアたっぷりに描く村田と、社会的価値観の崩壊をニヒリズムたっぷりに描き、人工知能や先端医療を題材にした演劇や小説を発表してきた松井周が共同で原案を開発した演劇作品を上演します。

原案 | 村田沙耶香、松井周 作・演出 | 松井周

出演 | 金子岳憲 三村和敬 大鶴美仁音 日高啓介 能島瑞穂 王宏元 / 安蘭けい

あらすじ | 近未来。東洋のガラパゴスと呼ばれている千久世島という離島は、かつてない賑わいを見せていた。国産みの神話に登場する島であると同時に、その島で発掘される「レアゲノム」という化石由来のDNAがヒトや動物の遺伝子組換えに必要なものとして注目を集めているからだ。その島に住む男は、奇祭で弟を失う。ところがある日、弟は蘇り、まるで別人のように男の前に現れる。弟の存在は島の住民を狂わせていく。そしてそれは、島の存亡を揺るがす事態に発展していく…

日時  
12月18日[水]  
14:00/19:00開演  
19日[木]  
18:00開演  
会場  
ノースホール

**全席自由(整理番号付)** 一般3,500円 / ユース(25歳以下) 2,000円 / 18歳以下1,000円 [発売中]

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 企画製作 | 有限会社quinada 共同製作 | 三重県文化会館(公益財団法人三重県文化振興事業団)、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、神戸文化ホール(公益財団法人神戸市民文化振興財団)、莎士比亞の妹妹們的劇團 助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) / 独立行政法人日本芸術文化振興会、一般財団法人地域創造、國家文化藝術基金會

主催

# レパトリーの創造 『ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ 『シヨールームダミーズ』』

## 舞踊/DANCE



マネキン

### 人形と人間が織りなす、美しくも刺激的な時間。

### 異オジゼル・ヴィエンヌと共に創造する、あらたなレパトリー

フランスの舞台芸術の最先端を体現するジゼル・ヴィエンヌ。自ら製作した人形を用い、美しくも危険な物語世界をつくりあげる彼女が、エティエンヌ・ビドー＝レイと共に手がけた初期の代表作『シヨールームダミーズ』を、当劇場のレパトリーとして再創造します。

ダンサーの生身の身体とマネキンを舞台上で共存させ、エロティシズムやフェティシズムの本質に迫る本作は、マゾッホの小説『毛皮を着たヴィーナス』から着想を得たもので、2001年の初演以来、世界各国で上演され進化を続けてきました。その最新バージョンとなる今公演では、初めてキャストを女性に限定。6人の出演者と共に、男女間の問題を超えた、欲望や快樂のありようを紐解きます。

演出・振付・舞台美術 | ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ  
出演 | 朝倉千恵子\*、大石紗基子、高瀬瑤子\*、花島令\*、藤田彩佳\*、堀内恵\*  
(\*オーディション選抜メンバー)  
音楽 | ピーター・レーバーク 照明 | パトリック・リウー  
振付・演出アシスタント | 仁田晶凱

#### レパトリーの創造について

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、公立劇場が主体的に作品製作に取り組み、劇場のレパトリー演目として時代を超えて未永く上演されることを念頭にプロデュースします。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトルク、制作者等の専門家人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパトリーの創造から各地域における劇場文化をつくることを目指します。

#### ジゼル・ヴィエンヌ / Gisèle Vienne

1976年生まれ。哲学を学んだ後、フランス国立高等人形劇芸術学校に在学。振付家、演出家、パフォーマー、美術家として活躍。小説家のデニス・クーパーとのコラボレーションのほか、写真やインスタレーション作品も積極的に発表している。2018年には、KYOTO EXPERIMENT で鮮烈な印象を与えた『CROWD』で、フランスの批評家協会賞の最優秀賞を受賞。



Photograph ©Patrick Chiha

#### エティエンヌ・ビドー＝レイ / Etienne Bideau-Rey

1975年生まれ。ベルギーのサン＝リュック美術学院、リエージュ王立美術アカデミー、フランスの国立高等人形劇芸術学院で学ぶ。振付家・演出家の活動の他に、ドローイングや彫刻も制作。2000年にマルセル・ブルスティン・ブランシェ職業財団賞を受賞。最初の舞台作品をジゼル・ヴィエンヌと共に手掛ける。



**全席指定** 一般4,000円/ユース(25歳以下)2,000円 [発売中]

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 協賛 | 京都信用金庫 助成 | 2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

column

ロームシアター京都から「舞台芸術としての伝統芸能vol.3 人形浄瑠璃 文楽」のスーパーバイザーという大役を仰せつかった際、真っ先に思ったことは「文楽の“これから”に貢献できる公演にしたい」ということでした。

およそ、現代において文楽が担う“使命”は二つに大分されます。「伝承」と「普及」。古典演劇として、芸を伝え、演目を継承し、文楽を守っていく「伝承」。生きた芸能として常に同時代の観客を楽しませ、また新たな観客を獲得していくための「普及」。いわば、守りと攻め、という時に相反する二つの道を、現代の文楽は同時に歩かなくてはならず、その道は、想像以上に、険しいように思います。

例えば、近年の文楽で上演されるレパトリーは、戦前に比べて、確実に減少しています。すでに伝承が途絶えたもの、伝承されていたとしても現代にそぐわないと判断せざるを得ないものが増えたというのが一番の問題なのでしょう。普及においては、すでに新作の上演、また文楽協会による全国津々浦々での巡業公演、芸芸員さんたちによる文楽紹介イベントやミニマムな公演がたくさん行われていますが、本公演の狭間を縫って、これだけの精力的な活動を繰り広げる御苦労は並大抵ではないでしょう。「人形浄瑠璃文楽」という劇団の体力の消耗も心配なところです。

そのような現状の中で、今回、スーパーバイザーとして、『木下蔭狭間合戦』の「竹中砦の段」と、『端模様夢路門松』という番組立てを考えました。幸い、桐竹勘十郎師も快くお引き受けくださり、両演目の主演と演出を担っていただけることになりました。

「竹中砦の段」は『木下蔭狭間合戦』の七冊目にあたり、1789年(寛政元年)2月に道頓堀大西芝居で初演されました。享和、文化年間に上演回数が増え、文楽の人気レパトリーとして定着しましたが、近代に入って急速に上演頻度が下がり、1934年(昭和9年)の四ツ橋文楽座を最後に上演が途絶えています。その後、伝承者であった四世竹本津太夫、六世鶴澤寛治によるスタジオ録音によるラジオ放送(1965年9月23日NHK)、2003年には早稲田大学演劇研究センターと九世竹本綱太夫(のちの源太夫)、鶴澤清二郎(現・藤蔵)による復曲によって素浄瑠璃のかたちで二度上演されてはいるものの、人形付きでの完全な形での上演は

86年ぶりになります。また国立劇場や国立文楽劇場においても断続的に復活が検討されてきたと聞きます。先人たちの努力と成果の詰まった“悲願”を引き受けながらの、完全復活上演になります。

史実の桶狭間の合戦を背景に繰り広げられる、竹中官兵衛(史実では、竹中半兵衛)と此下当吉(史実では木下藤吉郎)の名軍師二人による知恵比べ、戦時下における官兵衛一家の離散と再生、そして戦の狂騒と空しさ……それら骨太なドラマは、不安定な国際情勢の只中に生きる現代の私たちの心にきっと響くはずで。

ちなみに今回は、綱太夫復曲版をベースにおいて上演する予定ですが、「竹中砦」の名演録音を残した四世津太夫のもとで研鑽を積まれた竹本津駒太夫師の語り、復曲者のおひとりである藤蔵師による三味線で聴くことができるという、文楽ファンにとってまさに「胸アツ」の一幕となっております。主役・官兵衛を遣う勘十郎師をはじめとして、現代の文楽界を代表する豪華メンバーによる熱演も見逃せません。

『端模様夢路門松』は勘十郎師による新作。三人遣いの人形に憧れる一人遣いの端役・つめ人形が舞台裏でみる夢……面白くてやがて哀しい珠玉の物語ですから、文楽ビギナーの方にも楽しんでいただけるはずで。同時に古典のパロディもふんだんに散りばめられておりますから、文楽の面白さをより実感していただけるのではないかと思います。ロームシアター京都サウスホールという大きな空間に合わせて、演出も新たにバージョンアップされます。本作の作曲者でもあり、初演以降ご自身のレパトリーにもされてきた鶴澤清介師の三味線に加え、期待のホープと呼び声高い竹本碩太夫さんに初めて語っていただくという、こちらもスペシャルな一幕。

ぜひ足をお運びください。見巧者の方にも、ビギナーの方にも、満足していただけるはずですから。そして、ロームシアターが企てる“文楽のレパトリーの再創造”の試みを目撃していただきたい。本企画を経て、今後、「竹中砦」や「端模様夢路門松」が文楽のレパトリーとして定着していくことを不肖スーパーバイザーとして切に願っておりますし、「伝承」「普及」の二筋の道は、実は一本の大道だったと実感していただけるのではないかと、いま、胸が躍っています。

## 文楽二筋道

木ノ下裕一(木ノ下歌舞伎主宰)

# ジゼル・ヴィエンヌ、 エティエンヌ・ビドー=レイ

演劇

ジゼル・ヴィエンヌとエティエンヌ・ビドー=レイが、初期の代表作『ショールームダミーズ』(2001年初演)を、日本人キャストと共に、ロームシアター京都のあらたなレパートリーとして再創造。ハイヒールや化粧を施したマスクなど、さまざまな女性的記号が配置された空間で、マネキンとダンサーたちが掘り下げるのは—。

—『ショールームダミーズ』は、初演から現在まで3つのバージョンがつくられています。今回さらに『ショールームダミーズ#4』に取り組む意味をどのように考えていますか。

**エティエンヌ** この作品は初演から今まで、ずっと進化をしてきましたし、その間に私たちが文楽や能といった日本の伝統芸能、ミニマリズムに影響を受けてきました。ですから日本で、日本人のキャストとこの作品を再創造するには、大きな意味を感じます。オーディションにあたっては、よりさまざまな感情、心理を表現するためにも、6人ともタイプの違う人で、なおかつそのことがチームとしてのダイナミズムにつながるような組み合わせにしたいと考えていました。そのためにも、バックグラウンドの異なる人を選びたかった。実際、ダンサーだけでなく、俳優も交えた今回のキャスティングにはとても満足しています。

**ジゼル** 『ショールームダミーズ』では、社会によって規定された身体が、その社会の秩序や法を乗り越えることによって制裁や罰を受けると同時に、快感を感じるということが起きます。ある秩序を超えていくことから、あらたな秩序が生まれてくるさまが描かれているわけです。日本人のダンサーとしっかり仕事をするのは初めてですが、彼ら6人の身体にはやはり、日本に関する文化的インフォメーションが入っているはずで、その身体性、そ

れぞれの個性も踏まえたうえで、これからどう作品が書き換えられていくのが重要です。パフォーマンスアーツのような一過性の表現を扱いつつ、どのように歴史をつくっていくか。それが、「レパートリー」に関して私たちが考えなくてはならない問題です。2019年の「いま」を語るのに、2001年とまったく同じものを見せるのは偽りです。本質的な部分を保ちながら、どのように時代に合わせて作品を書き換えていけるのか。それが歴史に対してオープンであるということだし、歴史をつくっていくことだと思います。

—今回のリ・クリエーション版でのいちばん大きな変化は、出演者が女性のみになったことです。男性出演者の存在は“マネキンに恋をする男性の物語”といったロマンチズムや男性の欲望が女性を操っているのではないかといったフェミニズム的な批判など、ジェンダーの対立軸を通して、作品の図式をシンプルに見せますが、女性の場合のみはもっと、作品の解釈が開かれていくように感じます。

**エティエンヌ** おっしゃる通り、扱っているテーマが、男と女の間だけに膠着しないように「女性のみ」という選択をしました。

**ジゼル** エロティシズムや欲望、愛、フィーリングは、男性と女性の間のみにあるのではなく、たとえば音や空間の間にも生まれるものです。今回のクリエーションでは、そうした多方向性を体現するために、照明や音響なども含め、観る人の五感を刺激することを意識しています。

**エティエンヌ** 男性がいなくても、エロティシズムを感じさせる状況をつくりたい。もちろん声高に「これがあるべき姿だ」というわけではない。でも、女性が自分のためによりセンシユアルになるのは自然なことで、「そこには男性の視線があるはずだ」と言うほうがおかしかったんだとは感じてもらいたいですね。

**ジゼル** ほかに女性がいるにもかかわらず、男性が一人いることによって、その作品自体が男性の視線で語られる物語になってしまうといった現象は、この作品に限らず世界中のいろいろなところで起きています。男の人が何か作品を発表するときは、アートや世界について語ることができるとは、女の人の場合は「女性」について語ることが多い。ゲイのアーティストもそのことについて語ることが求められます。これはアンバランスですよ。こうした(ヘテロ)男性寄りの不均衡をリバランスしたいとも思っています。生物学的な性別の対比を置かなくても、女性性、男性性を考えることはできますし、女性だけでもそれを語ることは可能です。

—ただその一方で、この作品は、見られる身体としてのマネキン、化粧をしたマスク、ハイヒールといった、いわゆる記号的な女性性を扱っていますし、そのこと



演劇

舞踊

音楽

総合

は出演者が女性のみになることでより印象を強めると思います。

**ジゼル** ハイヒールやドレスは、社会的なコードとしての女性性であって、本当の女性性は、もっと複雑で掴みにくいものだと思います。この作品に登場するファッションやメイクに共通するキーワードは「異性装<sup>トランスベスティアイト</sup>」です。私は、女性が女性的になるということも、そのひとつとして捉えることができると思います。私自身、ハイヒールを履き、ドレスアップをするときには快感を覚えます。そうした女性性がつくれたものであるということを知りながら、快感を覚えているわけです。これはどういうことなのでしょう。今日のフェミニズムは、70年代にハイヒールを拒否したときのそれとは異なります。問題はもっと複雑化していて、だからこそ、この快楽について見ていかなければいけない。また、そうした複雑さを語るうえでも、この作品に男性と女性、それぞれの視点を持った演出家がいるということは重要だと感じます。

—人形は、完全さと不完全さ、フェティッシュといったさまざまな側面を持ちますが、そもそもお二人のクリエーションにとって人形とはどういうものなのでしょう。

**ジゼル** 何千年という歴史の中で、なぜ人は人形の形をしたオブジェクトをつくり続けてきたのか。人形には、キリスト像のような宗教的なものから、もっと世俗的な、たとえばダッチワイフまで、非常に広い幅があるということにも興味をそえられるし、そもそも「人形」とはなんなのかと考えさせられます。『ショールームダミーズ』で、舞台上に登場するマネキンはエティエンヌと私がいちからつくったもので、既成の鋳型ではなく実際のダンサーから型をとっています。マネキンは人間を模してはいますが、リアルではない。ちなみに、現在アメリカでつくられている大人のマネキンは、12歳くらいをモデルにしたものです。こ

れってすごく怖いですよ。今回のマネキンはあくまでも思考を展開させていくためのインターフェイスですし、マネキンと美の基準の問題について直接的に語るわけでもありませんが、人形を通して、こうした考えが深まることは確かです。

**エティエンヌ** 人形は造形物です。いろいろな用途に使われますが、意思を持って動くことはない。私はそこに魅力を感じています。特に今回のマネキンは、パペットのように動きをつけることもできないんです。そのマネキンは舞台上でどのように変化して見えるのか。人形が子供の遊び道具になるとき、そこにはマジックが生まれています。ステージ上の造形物が人格を得て、何かを語りだすとすれば、それはとてもマジカルなことです。

舞踊

音楽

総合

学び/参加



学び/参加



ダンス×異形の人が、  
シュールで詩的な世界に誘うダークファンタジー。

京都のパフォーマンス集団 ANTIBODIES collective を率いるダンサー・振付家東野祥子と現代音楽家カジワラトシオが、デンマークで今最も注目を浴びるネオ・パペトリカンパニー Sew Flunk Fury Wit と初のコラボレーションに挑戦します。オペラ歌手の歌声が通低音と響く舞台に、空虚な目を宿した等身大の人形たちと東野のダンスが絡みます。グロテスクでユーモラスな身体の変容と拡張に遊ぶ、ハイパーシュールな音楽劇。音楽はメキシコの作曲家Murcof Coronaとカジワラトシオ。アイスランドのオペラ歌手Isabella Leifdttirのクリスタルヴォイスで物語は紡がれていきます。

振付・ダンス | 東野祥子 (日本) Singer | Isabella Leifsdottir (アイスランド)  
コンセプト、パフォーマー、人形製作 | Svend E. Kristense (デンマーク)  
演出 | Jesper Pedersen (デンマーク)  
音楽 | Murcof aka Fernando (メキシコ)、カジワラトシオ (日本)

**全席自由** 一般 前売3,500円、当日3,800円 / ユース (25歳以下) 前売2,500円、  
当日2,800円 [12月15日 (日) 一般発売開始]

主催 | ANTIBODIES collective 企画・制作 | NPO法人魁文舎 共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金 (国際芸術支援事業)、独立行政法人日本芸術文化振興会

共催

日本・デンマーク共同制作 ANTIBODIES collective 東野祥子 × SPFW  
『CORPO SURREAL』

日時  
2020年  
2月28日 [金]  
19:00開演  
29日 [土]  
14:00開演

会場  
ノースホール

## 音楽 / MUSIC

主催



2017年公演より 撮影 | 寺司正彦

2017年にも上演し、好評を博した、ブッチーニ作曲のオペラ『蝶々夫人』を、城谷正博指揮、日本を代表する一流の歌手陣、京都市交響楽団の演奏でお贈りします。栗山民也の演出は、死をもって愛を貰った蝶々さんの世界をシンプルながらスケールの大きな舞台で描いています。人物の内面を鮮やかに描写する演出が、高校生の想像力を刺激し、オペラへの興味を喚起します。

演目 | G. ブッチーニ 歌劇「蝶々夫人」全2幕 (イタリア語上演 / 日本語字幕付)  
指揮 | 城谷正博 演出 | 栗山民也 合唱 | 新国立劇場合唱団 管弦楽 | 京都市交響楽団  
蝶々夫人: 小林厚子 ピンカートン: 小原啓楼 シャープレス: 青山貴  
スズキ: 山下牧子 ゴロー: 内山信吾 ボンゾ: 島村武男 ヤマドリ: 吉川健一 ほか

**全席指定** 高校生以下 2,200円 / 一般4,400円

※1日目 (10/28) のみ当日券を販売します (詳細は10月中旬にWEBサイトでお知らせします)  
※前売券の販売はありません

主催 | 京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場  
助成 | 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

新国立劇場 高校生のための  
オペラ鑑賞教室 2019  
『蝶々夫人』

日時  
10月28日 [月]  
30日 [水]  
13:00開演 (両日)

会場  
メインホール



『カルミナ・ブラーナ』は日本屈指の振付家である故石井潤氏の代表作の1つで、運命の力に翻弄されながらも生を謳歌する人々の姿が豊かに描き出され、力強く壮大な群舞が見どころです。可愛さ、美しさ、民族色溢れるレオ・ドリブの音楽による『 Coppélia 』は小さなバレリーナからプリマバレリーナまで、魅力がいっぱいに詰まった舞台となり、『精霊たちの森』はシェイクスピア原作の『真夏の夜の夢』をベースにしたダンスシーン満載の新作。まさに子供から大人まで楽しめる大きな舞踊公演です。

上演作品 | 『精霊たちの森』 演出・振付: 石原完二  
『Coppélia』 第3幕 振付: 有馬えり子・井上佳子・末松大輔・原美香  
『カルミナ・ブラーナ』 振付: 石井潤 振付指導: 寺田みさこ・石井千香  
実行委員 | 有馬えり子・石原完二・井上佳子・神谷道子・末松大輔・  
世古口瑳喜・原美香・福本浩美

**全席自由** 1〜3階 3,000円 / 4階 2,000円 (全京都洋舞協議会のみ取扱) [発売中]

主催 | 全京都洋舞協議会 共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

共催

全京都洋舞協議会  
60周年記念公演  
Beyond the Generation ~ 世代を超えて ~

日時  
11月4日 [月・休]  
14:30開演

会場  
メインホール

共催

康本雅子  
新作ダンス公演

《タイトル未定》

日程  
2020年  
2月21日 [金]  
-23日 [日・祝]

会場  
ノースホール



前作『子ら子ら』メインビジュアル ©松本成弘

ダンサー・振付家の康本雅子はこれまでダンス界のみならず、演劇、音楽、映像など多岐に渡るジャンルにおいて活動をしてきました。2012年以降、移住や育児のため一旦活動休止した後、2017年から本格的に活動を再開し、同年には「母と子」を題材に自身の生活や苦悩を赤裸々に綴った作品『子ら子ら』を発表。それを経て次なる新作ではダンスの原点に立ち返り、意味や記号から解放された身体に焦点を当てます。「意味から自由になった時に初めて生まれる関係性というのがもしもあるのなら、そこではキスはキスじゃなくなるのかもしれない、という希望を込めて。」

出演 | 小倉笑、菊沢将憲、合田有紀、小山まさし、鈴木春香、辻本佳、泊舞々

**全席自由** 前売3,800円 ほか [12月15日 (日) 一般発売開始]

企画・制作 | 奥野将徳 主催 | ベーハー、康本雅子  
共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

室内オペラ

## 『サイレンス』〈日本初演〉



© Théâtres de la Ville de Luxembourg/Silvia Delmedico

### “ノーベル賞受賞・生誕120周年”川端康成 × “ゴールドグローブ賞・アカデミー賞受賞”アレクサンドル・デスプラ ジャンルレスでボーダレスな新作オペラ!

2019年に生誕120年を迎えた小説家・川端康成の短編小説『無言(サイレンス)』にインスピレーションを受け、グラミー賞やゴールドグローブ賞で作曲賞を多数受賞している注目の映画音楽作曲家・アレクサンドル・デスプラが新たに発表する室内オペラ。2019年2月にルクセンブルクで世界初演、パリ(フランス)での初演などを経て、2020年1月に日本初演を迎えます。ルクセンブルクを拠点に活躍する現代音楽アンサンブル「アンサンブル・ルシリン」の演奏に加え、VALENTINO(ヴァレンティノ)のクリエイティブディレクターが衣装を手がけるなど、これまでにないスペシャルなコラボレーションが実現。粹にとらわれない新しいオペラを体験してください。

原作 | 川端康成「無言」 音楽・指揮 | アレクサンドル・デスプラ  
台本 | アレクサンドル・デスプラ/ソルレイ 演出 | ソルレイ  
衣装 | ピエールパオロ・ピッチョーリ (VALENTINO)  
演奏 | アンサンブル・ルシリン  
ソプラノ | ジュディス・ファー バリトン | ロマン・ボックラー ほか

#### アレクサンドル・デスプラ/Alexandre Desplat

グラミー賞、ゴールドグローブ賞で音楽賞を多数受賞している注目の作曲家。2005年、『真夜中のピアニスト』でベルリン国際映画祭銀熊賞とセザール賞を受賞。2006年の『クイーン』でアカデミー賞にもノミネートされた。2008年の『ベンジャミン・バトン 数奇な人生』や2010年の『英国王のスピーチ』でもノミネート。2014年の『グランド・ブダペスト・ホテル』でアカデミー賞を初受賞。2018年『The Shape of Water』はゴールドグローブ賞最優秀作曲賞、アカデミー賞作曲賞を受賞。その後も多数のノミネート、受賞を続けている。

#### アンサンブル・ルシリン/United Instruments of Lucilin

ルクセンブルクを拠点に活躍する現代音楽アンサンブル。20世紀/21世紀の音楽の振興と創作に力を入れている。弦楽四重奏、ピアノ、打楽器メンバーを核にし、プロジェクトの規模に応じて管楽器や他の楽器が加わる。作曲家、学者、演奏家が創造に参加し、共に現代のさまざまな音楽分野の発展を目指している。コンサートだけではなく、子ども劇場や舞台作品など活発に活動を展開している。

[フランス語上演/日本語字幕付]

**全席指定** 一般6,000円/ユース(25歳以下) 3,000円 [発売中]

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)/独立行政法人日本芸術文化振興会  
後援 | 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、ルクセンブルク大公国大使館

日時  
2020年  
1月18日[土]  
18:00開演  
会場  
サウスホール

主催

共催



Photo: Kiyotaka Hatanaka

## Marihiko Hara 《FOR A SILENT SPACE》

現代アートや舞台芸術、映像のための音楽など幅広い分野で活躍し、2019年も様々なプロジェクト/作品への参加、楽曲提供等が予定されている京都の音楽家・原 摩利彦。これまで不定期に開催してきた室内楽コンサートシリーズ《FOR A SILENT SPACE》初となる劇場での公演です。ピアノを中心とした楽曲、フィールドレコーディングや電子音響を用いた即興演奏など、音楽家・原の世界を存分に堪能できる時間となります。

出演 | 原 摩利彦(ピアノ) ほか

**全席自由(整理番号付)** 4,000円 [発売中]

主催 | night cruising 共催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

主催

## 東京バレエ団×京都市交響楽団クリスマス・スペシャル バレエ『くるみ割り人形』〈全幕〉



©Kiyonori Hasegawa

### 日本を代表するバレエ団・東京バレエ団と 京響の夢のコラボレーションが実現!

チャイコフスキー作曲のバレエ「くるみ割り人形」は、世界中で幅広い世代に愛され、クリスマスの夜を舞台に、夢の世界を描いたファンタジー・ストーリーとして、非常に人気の高い名作です。今回は、京都市交響楽団の生演奏とともに、世界的にそのパフォーマンスレベルを評される東京バレエ団(正式名称:チャイコフスキー記念東京バレエ団)のバレエの美しさとあわせて、華やかで楽しい舞台の魅力をお届けします。

指揮 | 井田勝大 出演 | 東京バレエ団 管弦楽 | 京都市交響楽団  
元振付 | ワシリー・ワイノーネンに基づく 改定演出・振付 | 斎藤友佳理  
音楽 | ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

マーシャ(クララ): 川島麻実子 くるみ割り王子: 柄本弾

**全席指定** 一般 S席10,000円/A席8,000円/B席4,000円/C席3,000円  
ユース(25歳以下) S席5,000円/A席4,000円  
ペア割 S席18,000円/A席15,000円(一般2枚の場合) [発売中]

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 協賛 | 日東薬品工業株式会社  
助成 | 2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

日時  
12月22日[日]  
14:00開演  
会場  
メインホール

## アレクサンドル・デスプラ



『サイレンス』は、アカデミー賞受賞などで知られる映画音楽作曲家アレクサンドル・デスプラが初めて作曲した室内オペラである。2020年1月の日本公演を前に、日本と深く関わるこの作品についてデスプラ自身に語ってもらった。

——どういった経緯で初めてのオペラを書くことになったのでしょうか。

実は長いこと、ソルレイ (ドミニク・ホルモニエ、デスプラの公私に渡る長年のパートナー) と映画音楽から離れてみたいと話合っていました。もちろん、映画音楽にはつねに情熱を持っていますし、映画音楽の作曲は私の日常生活に組み込まれていますが、やはりそこにはコンサート用の音楽や舞台音楽にはない制約があります。

そして数年前、川端康成の短編小説『無言』に出会ったわけです。この短編を読んで、小規模で、短く、少ない登場人物による胸を打つ作品、しかも、私たちの個人的な出来事 (ヴァイオリニストであるソルレイの片手が不自由になったこと) に重なる物語についての、極めて詩的で控えめな舞台作品が可能だと感じました。私は、華々しさより慎み深い控えめさが好きなのです。

——制作においてもソルレイとのコラボレーションだったのですよね。

そうです。言葉ではなく音楽を優先する形でソルレイと一緒に台本を作っていました。それから、演出も、演奏家としての視点を持つソルレイが手がけました。つまり、このオペラでは本当に音楽が中心となっている。そのおかげで、私は安心して初のオペラ作曲に取り組むことができたし、まさにこれこそが私のしたかったことだったのです。ソルレイとは、昔からいつも、音楽についてアーティスト的な意見を交わしてきたという信頼感もあります。

——とくに日本の小説を選んだ理由がありますか。

日本は、日常的に私の暮らしの一部となっています。合気道を習っていた少年時代から現在までずっと、日本とその文化を愛し続けてきました。

——日本のどんな点が好きですか？

秩序、洗練、そして自然との近さですね。ありのままの自然が、入念に受け継がれてきた伝統文化の精緻さと混ざり合っている。それは、美と完璧への情熱を持った職人の仕事などにも見られます。溝口健二をはじめとした詩的な日本映画、あるいは日本の音楽にももちろん、そういった私の好きな側面があります。例えば、武満徹の音楽からも多くを学びました。彼は、とても自由な精神を持っていて、日本文化の影響を受けつつ、ドビュッシーやメシアンなどを取り込んで独自の音楽言語を構築し、洗練された作品を創作したわけです。彼の音楽はまさに私の好きな控えめさ、透明感、純粋さを持っています。

——『サイレンス』では、日本的な要素がかなりリアリティックな形で見受けられました。

舞台全体は、私たちが夢想し、新たに再構築して作り上げた日本、私たちが愛し、身近に暮らしている日本が投影されています。とくに、ソルレイによるビデオは、すべて日本的な世界を表現しています。

といっても、安易な「ジャポニスム」は避けなければなりません。そこで、ソルレイの演出では、ある程度、抽象性を大事にしたのです。例えば、舞台の奥に色とりどりの衣装を着た器楽奏者たちが配置されますが、それらは抽象的に、日本文化において重要な自然を表しています。ソルレイは、演奏者たちが、色彩の点のように舞台を彩るとともに、幽霊や、自然に近い精霊のようなものとして抽象的な存在感を与えることを望みました。

もちろん、私たちは非常に川端の作品をリスペクトしていて、そしてこの短編が日本文化を凝縮して伝えるものであると考えたため、具体的に日本を表す要素も必要でした。音楽でも、器楽アンサンブルは、3人のフルート奏者、3人のクラリネット奏者などと、3つずつグループにする雅楽の楽器編成の方法になっています。

——つまり、音楽にも日本的な要素を取り入れたということですね。

そうです。木管と弦楽、つまり木だけで作られた楽器編成で、打楽器には太鼓もあります。いわゆる伝統音楽の太鼓の音型を奏でるわけではありませんが、そういった意味で、一種の日本へのオマージュであり、日本は作品のそこかしこに存在するわけです。

時折、非常にゆっくりと抑制されたテンポを使いましたが、そこでは雅楽の始まりの、宙に浮かんでいるような、引き延ばされた荘厳な時間を再現したいと考えました。

また、日本の伝統音楽のように器楽奏者が歌い手の歌う旋律を同時に奏でることも多く、背後に見える幽霊

のような役割を果たしています。

——幽霊といえば、ソルレイによる「幽霊ヴァイオリン」が何度か聴こえますね。

彼女のヴァイオリンの即興演奏を録音したものです。そこには、一種の目に見えない痛みや苦痛が感じられます。——それはやはり、このオペラのテーマ「表現手段を失ったアーティストはどう生きていくか」という問いにつながっているのでしょうか。

そうです。表現手段を失ったアーティストは、どう表現していくか、どうコミュニケーションしていくか、というのも、芸術家は芸術を通してコミュニケーションするからです。私は言葉よりも音でコミュニケーションします。だからこそ、初めてのオペラを作曲するまでにこれだけ長い年月を経たのです。音楽とともに言葉を使うというのは、私にとって、ワンステップ余計 (笑)、だからです。



続きは、『サイレンス』特設WEBサイトで  
お読みいただけます

主催



2017年公演より ©大窪道治

## 小澤征爾音楽塾 オペラ・プロジェクトXVIII 「シントラウスII: 喜歌劇『こうもり』」

世界的な指揮者である小澤征爾が、自らの音楽経験を後進の若手音楽家に伝えることを目的に、2000年に立ち上げた教育プロジェクトによるオペラ公演です。日本、中国、台湾、韓国でのオーディションで選ばれる若手音楽家たちで結成するオーケストラと、一流の出演者・制作陣によって、高水準のオペラを制作します。また、一般向けの公演だけでなく、京都府内の小学生を対象にした、「子どものためのオペラ」公演 (3月13日) も開催します。

音楽監督 | 小澤征爾 管弦楽 | 小澤征爾音楽塾オーケストラ

料金未定 [12月一般発売予定]

主催 | 小澤征爾音楽塾/ヴェローザ・ジャパン、京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 企画・制作 | ヴェローザ・ジャパン 共催 | 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

日程

2020年  
3月20日 [金・祝]  
22日 [日]

会場

メインホール

主催

# KYOTO EXPERIMENT

## 京都国際舞台芸術祭 2019



Photo: Ichisei Hiramatsu  
Design: UMA / design farm

2010年より、世界各地の先鋭的な舞台芸術を紹介してきたKYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭。国内外から気鋭のアーティストを迎え、演劇やダンス・音楽にとどまらず、美術など従来のジャンルを越境し、いま注目すべき多様な表現が京都に集います。今回のフェスティバルのテーマは「世界の響き ―エコロジカルな時代へ」。(西洋に対し)東洋を中心に据えること、あるいは(人工に対し)自然を中心に据えることといった二項対立的な考え方を超えて、様々な主体が多層的に響き合う、新たな世界の捉え方を提示するプログラムを展開します。

### ロームシアター京都で開催するプログラム



チョイ・カファイ『存在の耐えられない暗黒』

[ダンス/シンガポール、ドイツ・ベルリン]

幽霊のエンジニアリング

テクノロジーと魂の交点に呼び出された舞踊の身体

暗黒舞踏の創始者、故・土方巽と古今のメディアを用いながら対話し、踊ることを試みるダンス作品。

10月5日[土]–6日[日] ノースホール



チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』[演劇/日本]

人間のスケールを脱する演劇とは?

人、モノ、時間、空間、言葉が、未知のすがたで現れる―

演劇をアップデートし続けるチェルフィッチュによる、「人間的尺度」を疑う最新作。

10月5日[土]–6日[日] サウスホール



劇団ペニ『蛸入道 忘却ノ儀』[演劇/日本]

身体にねばりつく危険な快感

にじんできく現実とフィクションの境

寺院を模した空間と、儀式的なパフォーマンスに巻き込まれていく没入型演劇。

10月11日[金]–15日[火] ノースホール



久門剛史『らせんの練習』[パフォーマンス/日本]

広大な劇場を満たす音と光の奔流

イメージの連なりが紡ぎ出す記憶の物語

劇場的とも評される空間を作り出す

美術家・久門剛史による初のパフォーマンス作品。

10月20日[日] サウスホール

主催 | 京都国際舞台芸術祭実行委員会 [京都市、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター]

総合 / MULTIDISCIPLINE

主催



マレウレウ

ユザーン

石濱匡雄

ロームシアター京都の中庭「ローム・スクエア」に、建築家ユニット「dot architects (ドットアーキテツ)」設計による特設ステージ“シマシマジマ”が出現!

期間中は、音楽ライブやトークイベントなど、さまざまなイベントが目白押し。

ニュー・ブランシュ KYOTO 2019 関連イベント

OKAZAKI PARK STAGE スペシャルライブ

日時 | 10月5日[土] 16:00–21:00

岡崎地域を中心に活動する音楽グループのほか、アイヌの音楽を伝承する女性ヴォーカルグループ「マレウレウ」や、インドの楽器タブラ奏者のユザーンとシタール奏者の石濱匡雄によるデュオが登場! 音楽とともに地域の飲食店による屋台もお楽しみください。

参加無料 予約不要

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市 助成 | 2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業 協力 | NPO法人あつまるつくる、京都市岡崎いきいき市民活動センター、NPO法人音の風

岡崎ワールドミュージックフェスタ2019

日時 | 10月22日[火・祝] 11:00–17:00

岡崎公園を中心とした周辺地域に、文化的な賑わいと交流を生み出すことを目的に、岡崎エリアの飲食店や施設が主体となって実施している音楽祭。今年は、「アジアの島々」をテーマにロームシアター京都で初開催。岡崎・聖護院の飲食店の屋台を中心に個性的なワールドフード屋台が世界の音楽と縁日を盛り上げます。

参加無料 予約不要

主催 | 特定非営利活動法人あつまるつくる、ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 共催 | 京都市岡崎いきいき市民活動センター

このほか、10/27[日]「ホリデー・パフォーマンス Vol.3 中川裕貴×渡邊尚」、KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 2019ミーティングポイントなどの関連企画もあります。

# OKAZAKI PARK STAGE 2019

日程

10月5日[土]  
–27日[日]

会場

ローム・スクエア  
特設ステージ  
“シマシマジマ”

共催

# パフォーマンス『Reanimation』

ジョン・ジョナス 京都賞受賞記念



Joan Jonas, Reanimation, 2012, performance at Hangar Bicocca, Milan, Italy, Light Time Tales, 2014. Photo by Moira Ricci

## 現代美術の最先端を走り続けるジョン・ジョナス、近年の代表的パフォーマンス

パフォーマンスとニューメディアを融合させた新しい芸術表現の先駆者であり、50年にわたり現代美術の最先端を走り続ける美術家、ジョン・ジョナス。2018年に第34回京都賞思想・芸術部門を受賞した記念公演であり、国内最大規模のパフォーマンス公演です。今作は、ピアニストのジェイソン・モランと2012年に初演したコラボレーション作品となります。

出演 | ジョン・ジョナス、ジェイソン・モラン (ピアノ)

**全席指定** 一般3,500円/ユース (25歳以下) 1,000円 [発売中]

主催 | 公益財団法人稲盛財団 共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)  
企画・制作 | ロームシアター京都 企画協力 | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

### ジョン・ジョナス 京都賞受賞記念 展覧会

日程 | 2019年12月14日 [土] - 2020年2月2日 [日]

会場・お問合せ | 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA TEL.075-253-1509

日時

12月12日 [木]

19:00開演

会場

サウスホール

主催

## 新作パフォーマンス

KYOTO STEAM - 世界文化交流祭 - 2020



『Voyage』(2002年) Photo: Kazuo Fukunaga

## 世界がその動向を注目し続ける伝説のマルチメディア・パフォーマンス・グループ ダムタイプ、2002年以来18年ぶりの待望の新作発表!

ダムタイプは、映像、ダンス、音楽、デザイン、コンピューター・プログラムなど異なる背景をもつメンバーによるアーティスト集団です。1984年の結成以来、プロジェクトごとにメンバーや表現方法を変化させながら、集団による共同制作の可能性を模索しつつ、マルチメディアを使ったパフォーマンスやインスタレーションを中心に発表し、国内外で活動しています。今回は、2002年初演『Voyage』以来となる新作を上演します。

制作 | ダムタイプ、ロームシアター京都 企画製作 | ロームシアター京都 主催 | KYOTO STEAM - 世界文化交流祭 - 実行委員会 参画団体 | 京都市、京都市立芸術大学、京都市美術館、京都市動物園、(公財)京都市芸術文化協会、(公財)京都市音楽芸術文化振興財団、(公財)京都高度技術研究所、京都商工会議所、京都経済同友会、日本放送協会京都放送局、京都新聞社、京都岡崎 蔦屋書店 助成 | 2019年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

日程

2020年  
3月27日 [金]  
-29日 [日]

[予定]

会場  
サウスホール

主催

# U35創造支援プログラム“KIPPU”

ロームシアター京都 × 京都芸術センター



お寿司 ©松本成弘

オル太『スタンドプレー-vol.1』(2018年) ©井上佐由紀

## 次代を担う若手アーティストが京都から羽ばたく! 新たな創造支援プログラムの2年目

若手アーティストの発掘と育成を目的に、ロームシアター京都と京都芸術センターが協働して行う創造支援プログラム“KIPPU”。2年目となる今回、2019年度の参加団体募集を行い、選考を実施。衣装作家が立ち上げた舞台芸術団体「お寿司」(京都)と、巨大な彫刻やインスタレーション、集団による身体表現などを展開するアーティスト・コレクティブ「オル太」(東京)の2組に決定しました。各団体のフレッシュな感覚によって、ノースホールにどのような空間が立ち上がるのか、ご期待ください。

参加団体 | ①お寿司 (京都) ②オル太 (東京)

### ① お寿司 ボロレスコ『<sup>ハロー・しんじょう</sup>渡稜心中』(演劇)

作・演出・衣装 | 南野詩恵

出演 | 内田和成、大石英史、梶川貴弘、木村雅子(トランク企画)、合田有紀、下野優希、関珠希、瀧口翔、竹ち代穂也、野村香子、藤原大介(劇団飛び道具)、三枝眞希、村上渉プロフィール | 京都を拠点に活動する舞台芸術団体。衣装作家、南野詩恵が2016年に立ち上げる。作・演出・衣装を一つの頭から繰り出し、演者に対して、生地と文字という外面・内面両方からアプローチを試みる。アートやファッションに特化した演劇作品を生み出している。

**全席自由** 一般3,000円/ユース (25歳以下) 2,500円/  
高校生以下1,000円 (当日料金 各500円増) [10月11日 (金) 一般発売開始]

### ② オル太 『タイトル未定』

プロフィール | 井上徹、川村和秀、斉藤隆文、長谷川義朗、メグ忍者、Jang-Chi の6名からなる表現集団。2009年に結成し、日常の身振りから伝承されていく形式的な作法を取り入れ、土地に根付く集合的な記憶や人間の根源的な欲求に迫るインスタレーションやパフォーマンスを展開する。第14回岡本太郎賞受賞。

**全席自由** 未定

主催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市

※上記は企画の主催クレジットとなります。各公演は、主催 | 参加団体、共催 | ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都芸術センター (公益財団法人京都市芸術文化協会)、京都市で開催します。

日程

①  
12月11日 [水]  
-13日 [金]

②  
2020年  
2月8日 [土]  
-11日 [火・祝]

会場  
ノースホール

## 「いま」を考えるトークシリーズ

日程

通年

[全4回]

会場

パークプラザ  
3階共通ロビー

主催

地域の課題を  
プラットフォーム

ロームシアター京都では、あらゆる人々一障害の有無を超えて、誰にでも開かれている劇場とはどういうことか、障害者やその関係者とともに、問い直していく試みを始めます。今年度は、レクチャー等を開催予定です。

※詳細は決まり次第、ロームシアター京都WEBサイト等に掲載いたします。

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市  
助成 | 2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

日程

2020年1月-3月 [予定]

会場

ロームシアター京都

主催



多様な角度から同時代の社会を知り、捉え直すためのトピックを挙げ、それにまつわるゲストを招きます。複雑化し、混迷する現代を「いかに生きるべきか」。その手がかりを探り、ともに考えるトークシリーズです。

第9回目、第10回目は「観光」をキーワードに、観光と文化芸術の関係やオーパツーリズムの問題など、日本を代表する観光地でもある京都から考えます。

Vol.9 | 12月(予定) Vol.10 | 2020年1月(予定)

**参加無料** 申込優先(先着順)

※当日お席がある場合は申込無しでもご参加いただけます  
※Vol.11、12の詳細は後日WEBサイトでお知らせします

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市  
助成 | 2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

主催

## ホリデー・パフォーマンス



中川裕貴 photo by Takuya Oshima 渡邊尚 ©bozzo

いまいけぶろじえくと ©羽島直志

ジャンルにとられない多彩な音楽やパフォーマンスを紹介する新たなシリーズ。

Vol.3 10月27日[日] 17:00開演(約45分間)

会場 | ローム・スクエア特設ステージ“シマシマジマ”

出演 | 中川裕貴(チェロほか)×渡邊尚(ダンス、ジャグリング)

Vol.4 2020年2月24日[月・休] 14:00開演(約45分間)

会場 | パークプラザ3階共通ロビー

出演 | いまいけぶろじえくと(池田萌、今村俊博)(ボイスパフォーマンスほか)

**参加無料** 予約不要

日程

通年 [年4回]

主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市  
助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)/独立行政法人日本芸術文化振興会

学び/参加

主催

## 劇場の学校プロジェクト



講座の様子(舞踊コース 講師:木田真理子)

将来、日本の舞台芸術界を担う専門的な人材育成事業をスタート。2019年度は、プレ事業として、演劇、舞踊、メディア・パフォーマンスの3種類の講座を設け、国内外の第一線で活躍しているアーティストを講師として招聘し、中学生~18歳までを対象に実施します。また、芸術教育の現状と未来を考察する研究会も開催します。

講師 | [演劇コース] 岡田利規(演劇作家・小説家・チェルフィッチュ主宰)

松田正隆(劇作家・演出家・マレピトの会代表)

[舞踊コース] 木田真理子(ダンサー)/南村千里(ダンスアーティスト)

[メディア・パフォーマンスコース] 高谷史郎(アーティスト/ダムタイプ)

伊藤隆之(YCAM InterLab研究開発ディレクター)

今後の予定 | 11月2日[土]-4日[月・休] 講師 | 松田正隆

11月18日[月]-20日[水] 講師 | 伊藤隆之

12月14日[土]-16日[月] 講師 | 高谷史郎

※募集は締め切りました。※研究会について詳細が決まり次第、ロームシアター京都のWEBサイト等に掲載いたします。

企画製作 | ロームシアター京都 主催 | ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市  
助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)/独立行政法人日本芸術文化振興会

日程

2019年  
6月-12月



マルシェ



京都岡崎 蔦屋書店



BOOK &amp; ART GALLERIAでの展示



ローム・スクエア

## ロームシアター京都アセンブリープログラム

ロームシアター京都では、市民に憩いの場を提供し、新しい“京都会館”=ロームシアター京都を象徴するプログラムのひとつとして、日常的に「アセンブリープログラム」を開催しています。アセンブリープログラムは、「ほんものとの出会い」を作り出す京都岡崎 蔦屋書店（カルチャー・コンビニエンス・クラブ株式会社）と連携し、賑わいを生み出すために行うさまざまなイベントの総称です。ロームシアター京都が目指す劇場文化を育むための入り口として、気軽に参加できるマルシェや読書会などのプログラム、一般参加型のワークショップなどのプログラム、ロームシアター京都自主事業と連動したプログラム、地域施設・団体と連携したプログラムを展開しています。

過去開催したアセンブリープログラムの一例 | マルシェ(岡崎おかない市、岡崎いどりマルシェ、京の手づくりマルシェ ほか) / ワークショップ(ストール染め、抹茶を知って楽しむワークショップ、手作りうちわ ワークショップ ほか) / トークイベント / 読書会 / DJ イベント ほか



## ミュージックサロン

ミュージックサロンは、音楽とさまざまな形で触れあえる施設です。本格的な音響施設を備えた120インチスクリーンでのオペラ等の鑑賞や、音楽家によるコンサート、専門家によるセミナー、公演に関連した展示などを随時開催しています。

営業時間 | 10:00~19:00

場所 | パークプラザ3階

料金 | 入場無料

※一部整理券が必要な場合あり

共同運営 | 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション 協賛 | ローム株式会社

# ロームシアター京都 リサーチプログラム



プログラム策定のためのリサーチ、舞台芸術に関わる研究・批評分野と実践の場をつなげる若手人材の育成を目的に、2017年度よりリサーチプログラムを実施しています。今年度のリサーチテーマは、「子どもと舞台芸術」と「舞台芸術のアーカイブ」です。  
最終報告会 | 2020年3月24日 [火] 参加費無料

リサーチャー | 子どもと舞台芸術：根津青葉、渡辺健一郎

舞台芸術のアーカイブ：新里直之、松尾加奈、中谷森

メンター | 吉岡洋（京都大学こころの未来研究センター特定教授）

若林朋子（立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任准教授、プロジェクト・コーディネーター）

日程

7月  
-2020年  
3月

主催 | ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）、京都市 助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）/ 独立行政法人日本芸術文化振興会



Vol.01 (2018年3月発行・既刊)

Vol.02 (2018年12月発行・既刊)

[特集] 集まりの現在

Vol.03 (2019年3月発行・既刊)

[特集] 子ども/子供/子どもを考える

VOL.04 (2019年10月発行予定)

[特集] 古典のダイナミズム

VOL.05 (2020年3月発行予定)

[特集] 観光の現在 (仮)

## 機関誌 「ASSEMBLY (アセンブリー)」

2017年度より実施しているプログラム「リサーチプログラム」、「いまを考えるトークシリーズ」と連携する機関誌です。「リサーチプログラム」に参加するリサーチャーによる寄稿などを掲載しています。2018年度にVOL.02、VOL.03 を発行し、2019年度はVOL.04、VOL.05 を発行予定です。

年2号発行予定

## TICKET

## チケットのご購入について

## 【WEB】オンラインチケット 24時間購入可／要事前登録（無料）

※詳しくはロームシアター京都または京都コンサートホールのWEBサイトへ

URL <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

## 【電話・窓口】ロームシアター京都 チケットカウンター

TEL 075-746-3201（窓口・電話とも10:00～19:00／年中無休 ※臨時休館日を除く）

## 【電話・窓口】京都コンサートホール チケットカウンター

TEL 075-711-3231（窓口・電話とも10:00～17:00／第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日）

## CLUB

京都コンサートホール・ロームシアター京都  
Club会員募集中！

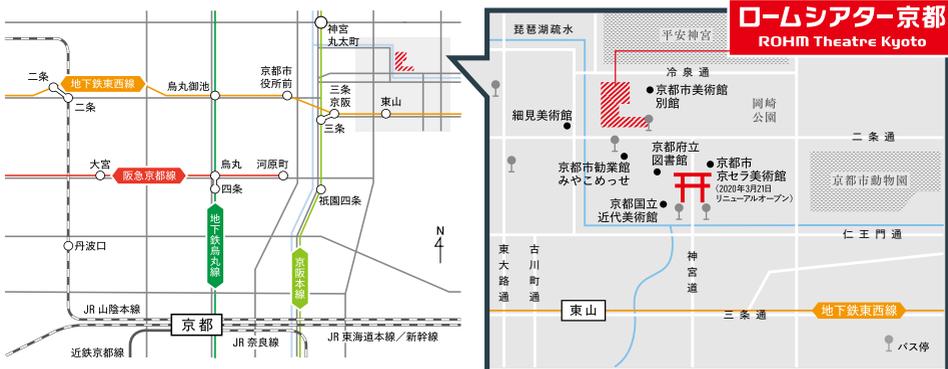
いつでもご入会いただけます。

入会金	年会費	会員期間
<b>無料</b>	<b>1,000</b> 円（税込）	<b>1年間</b> （4月1日～翌年3月31日）

- |   |  |                                 |
|---|--|---------------------------------|
| 特典<br><b>1</b><br>チケット<br>優先予約<br>※指定公演のみ | 特典<br><b>2</b><br>チケットの<br>割引販売<br>※指定公演のみ | 特典<br><b>3</b><br>公演情報等<br>のご送付 |
|---|--|---------------------------------|

詳細はロームシアター京都チケットカウンター（TEL.075-746-3201）までお問合せください。

## ACCESS



〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13

- 京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番出口より徒歩約10分
- 京阪電鉄「神宮丸太町」駅下車2番出口より徒歩約13分
- 市バス32・46系統、京都岡崎ループ「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ
- 市バス5・100・110系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車徒歩約5分
- 市バス31・201・202・203・206系統「東山二条・岡崎公園口」下車徒歩約5分

## CONTACT

TEL 075-771-6051（代表） 075-746-3201（チケットカウンター）

FAX 075-746-3366 URL <https://rohmtheatrekyoto.jp/>

f @ROHMTheatreKyoto t @RT\_Kyoto i @rohmtheatrekyoto